

教科または領域	数学
対象学年	中学校1年生
授業場所	少人数教室
単元	等式
単元の目標	小学校のときには、○、△、□を使って表していた式を、a、xの文字を使って具体的な事象に関する数量の等しい関係を等式で表せることができる。
単元の指導計画	<p>第1次 等式の表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の内容の簡単な文章問題を解く ・ 数字を文字に置き換え、式で表す ・ 数量の等しいもう一つの数字を与え、等式で表す ・ 「等号・左辺・右辺・両辺」の用語を確認する <p>第2次 等式を使って等しい数量関係を表す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章問題を与え、線分を使って解く ・ 文章問題を与え、自分で線分を用いて解ける
本時のねらい	・ 等式を、文字を用いて作り、左辺と右辺があることを知る
指導計画	<p>導入</p> <p>(1) 本時の課題をつかむ</p> <p>1. 「1個150円のりんごを2個と1個100円のみかんを3個買いました。代金はいくらですか」</p> <p>2. 「1個a円のりんごを2個、1個b円のみかんを3個買いました。代金はいくらになりますか」</p> <p>といった2つの問題を提示し、文字を用いることへのためらいを少なくした。</p>
	<p>展開</p> <p>(2) 導入の1. 2で使った問題をふまえて、左辺と右辺のある式を考える。</p> <p>1. ワークシートを使って、左辺と右辺の□に数字や式を入れる。</p> <p>2. ワークシートの中に「等式・等号・左辺・右辺・両辺」といった用語を確認する。</p> <p>3. ワークシートの中の線分図を使って、「姉が持っている金額」と「妹が持っている金額」が線の長さで表されていることを確認し、等式で表す</p>
	<p>まとめ</p> <p>(3) 練習問題を解き、線分図の表し方、等式を使った表し方ができる。</p>
<p>その他：</p> <p>ワークシート形式で授業したので板書事項をプリントに書いてある様式と全く同じにして授業を進めた。そのため、生徒はどこに何が書いてあるかをすぐに理解でき、空欄の中に文字や用語を入れることが容易にできたように思う。また線分図も、すでに書いておき、後は、問題文にそって書き足す形式にした。これに関しては、「線分図を使って解かないといけない」とは感じさせられたものの、生徒にはまだまだ不慣れで、「線分図の必要な意味」を感じさせられないまま、授業を進めてしまった反省が残る。</p>	